

## 平成25年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 議事録

日 時 平成25年7月4日（木）午後3時から午後3時55分まで

場 所 小田原市生涯学習センターけやき第2会議室4階

出席者 会員13名（うち代理出席2名）

### 配布資料

平成25年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 次第

平成25年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 出席者名簿

平成25年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 座席表

資料1 平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業計画（案）

資料2 平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算（案）

資料3 平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会の進め方（案）

資料3-1 小田原市生活交通ネットワーク協議会の体制（案）

資料3-2 小田原市生活交通ネットワーク協議会会員名簿（案）

参考資料 神奈川新聞記事抜粋

追加資料 傍聴要領等新旧対照表

### 議事要旨

#### 1 開会

会長挨拶。

#### 2 議題

- (1)「平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業計画（案）」及び(2)「平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算（案）」について

資料1及び資料2に基づき、事務局より説明。

質疑はなく、承認される。

- (3)「平成25年度小田原市生活交通ネットワーク協議会の進め方（案）」について

資料3、資料3-1及び資料3-2に基づき、事務局より説明。

【質疑】

- 会長 作業部会の体制について、市民代表イコール利用者代表とは限らないので、資料3-2の○印の会員以外の方も、毎回ではないが参加してもらうことを視野に入れる必要があるのではないかと。
- 事務局 このことについては、第1回の作業部会の議題としたい。地域住民、利用者の声を拾っていく方法として、下部組織に住民、利用者を含めたワーキングチームをつくることや、住民、利用者に作業部会へ直接参加していただくなど想定している。
- 会員A 連携計画に定める橘地域の路線バスの見直しについて、生活交通ネットワーク計画を策定する方向で検討を進めるとしているが、市内の似たようなケースとして他の地域を加え、並行して検討することは可能か。
- 事務局 まずは、ある程度の期間を要するが、先行モデルとして橘地域を検討したい。一番の課題として、行政、市民、交通事業者の役割分担がどういう形でアウトプットされるのか、モデルケースなので決まりではないが、一定の方向性が見出せれば、それがイコール基準づくりになると考える。提案、必要性、利用者数、採算といったものも含め検討した中でモデルケースをつくりたいので、まずは橘地域を先行させたい。基準が定まれば、基準に則した提案について、作業部会で検討していくという流れが、次年度以降に続くものと考えている。
- 会長 橘地域を先行することは、連携計画にも定められている。他市のルールをそのまま持ってきて、行政の文化の違い等により、上手くいかないことが多い。地域に入ってどういう場づくりを行い、信頼関係を築けばよいのか、まずは動いてみなければ分からない。つまりOJTであり、橘地域でOJTを行ってみて感覚をつかんで、二地域目として課題の提起があったり、事業者からの見直しの提案があったりして、小田原流のルールが収められてくるのではないかと。この協議会は、市民、事業者、行政の意見を集約し、実際に入り込んで検討するかどうかの判断をする主体で、その役割は重要である。
- 会長 品質確保部会の道筋は見えてきたが、品質向上部会の腹案は事務局にあるか。
- 事務局 事業4-①～③は事業内容に関連性があるので、まとめているが、具体的に何から進めるのかについては、第1回の作業部会の議題としたい。
- 会長 事業4-④のバスマップは継続であり予算が確保されている。事業4-⑤のインターネットの充実は手っ取り早くできそうである。埼玉県飯能市

のホームページではバス事業者3社の情報が共通して見られるようになった。

事業4-①～③は、これから新しく仕掛けなければならない事業であり、事業者、行政、あるいは国等からの支援を受けることを念頭に、課題を抽出することが重要である。体を動かして現地点検を行い、案内サイン、停留所等の課題を確認し、何から手を付けていくのか検討してはどうか。

最初の作業部会までに事業者、事務局で考えてもらいたい。絵でイメージが共有できると良い。川越では、改札を出てペDESTリアンデッキに接続するところで、液晶のバスの時刻、乗場案内が設置されていた。他の地域の情報を収集することも大切である。

事務局 第1回作業部会に向けて、交通事業者と行政で情報交換を行いたい。  
会長 フォーカシング（焦点付け）しておくのは良いと考える。作業部会で現地を確認し、そのフォーカシングの正否をチェックする必要がある。

会員B ルールについて、目指している形はあるのか。ルールをつくっている自治体はたくさんあるので、どこを参考にしていくのか。イメージに近いところのルールを使って、小田原らしいものにつくりかえてはどうか。相模原市、町田市の玉バスなど例はある。

事務局 先行事例を研究していくつもりである。近々、相模原市に視察に行く。  
会長 相模原市、埼玉市などは、合併で大きくなり郊外部に問題を抱えているので、ルールをつくる必要があった。視察で大切なのは、住民と行政のパートナーシップをどのようにして築いたのか、勘所をつかんでほしい。地域に入って、大体3回目ぐらいからいろいろな意見が出始めたりする。埼玉市、相模原市、日立市などは苦勞しているはずなので、回数や、期間を勘所として、つかんでくれば、年度計画に落としやすくなる。

その他、会員からの質疑はなく、承認される。

#### (4) その他

追加資料及び参考資料に基づき、事務局より説明。

質疑はなく、承認される。

### 3 閉会